

Ⅰ NPO 法人【仕事と子育て】カウンセリングセンター

8月20日(土)に開催された、福島県保育協議会主催の研修会に、NPO 法人【仕事と子育て】カウンセリングセンターとして支援活動を行いました。

- ◆日時：8月20日(土)13:30~16:00
- ◆場所：郡山ユラックス熱海(福島県郡山市)
- ◆主催：福島県保育協議会
- ◆協力：NPO 法人【仕事と子育て】カウンセリングセンター
- ◆対象：福島県内にある保育園園長及び、保育士 約150名

<内容>

福島県保育協議会主催研修会 午後の部 講演

『見えない不安とどうつきあうか？ーこころの響きあいを求めてー』

講師：丸田俊彦氏 (当NPOスーパーバイザー)

○第1部 講演

「プロ」は、人に何か聞かれた時に、「答え」を持っていなければならないと考えがち。保育士も、保育のプロとして、保護者の「不安」に必ず「答え」を言ってあげないといけないと考えてしまう。しかし、必ず答えがあるわけではない。答えを示すことができなくても、寄り添い、不安や悩みを共有することで信頼できる関係を築くことができるのではないか。等の内容に、うなずきながら聞く方の姿も多く見られました。



○第2部 グループ討議及び発表

グループ討議ではそれを受けて、5~6人のグループで話し合いました。

それぞれの保育園の震災時の状況、現在までの対応などについての情報交換がなされ、グループごとに発表しました。



原発事故という大きな脅威にさらされている福島県では、震災後も多くの保護者、子どもたちが不安な思いをかかえたままです。一方、保育士の皆さんは自分自身も被災しながらも、それらへの対応に心を砕き、日々の仕事をしています。この講演と、皆様のご意見を今後の活動に生かしていきたいとの思いを強く致しました。

<参加者の声>

- ・答えを出そうとするのではなく、どう乗り越えていくのかを共に考えていく事が大切だと感じた(24歳)
- ・同じ保育をしている中で、今の子どもたちに対する思いや悩みを共有できたことは、今の時だからこそ良かった(34歳)



・震災、放射線被害の中において、異なる視点での考え方や見方もあることを教えられ、気持ちが楽になったように思う。答えがないのに、集団的に一つの答えを見いだそうとしていることに気づきました。いろいろな考え、見方、保育のあり方があっていいのだという当たり前のことに気づかされました。(55歳)

・震災被害の大きさは違っても、不安や心配事は一緒なのだと分かり、答えのない問題に直面してそれぞれが考え、出来ることから進んでいこうとしている姿に励まされた思いがした(40歳)

・他県の方が福島の子育ての現状を理解してくださったこと、嬉しく力強く思いました。がんばります、がんばれます(52歳)

・他園の先生方との意見交換ができて、とても有意義でした。丸田先生から、それぞれの立場からの思いを共有することの大切さを教えて頂いたので、今後の園内でコミュニケーションに生かしたい(39歳)